

# 平成29年度政府予算案

(「科学技術イノベーション人材の育成・確保」関係)

# 科学技術イノベーション人材の育成・確保

平成29年度予算額(案) : 25,864百万円  
平成28年度予算額 : 26,690百万円  
※運営費交付金中の推計額を含む

科学技術イノベーションを担う多様な人材の育成や活躍促進を図るための様々な取組を重点的に推進。

## ■若手研究者等の育成・活躍促進

### ○我が国を牽引する若手研究者の育成・活躍促進

- ◆卓越研究員事業(※) 1,510百万円(1,000百万円)  
優秀な若手研究者に対し、安定かつ自立して研究を推進できる環境を実現するとともに、全国の産学官の研究機関をフィールドとした新たなキャリアパスを提示。
- ◆データ関連人材育成プログラム(※) 213百万円(新規)  
企業等がコンソーシアムを形成し、博士課程学生・博士号取得者等に対し、各々の専門性を有しながら、データサイエンス等のスキルを習得させ、産業界をはじめとする社会の多様な場での活躍を促進。
- ◆科学技術人材育成のコンソーシアムの構築 1,326百万円(1,327百万円)
- ◆テニュアトラック普及・定着事業 567百万円(1,225百万円)

### ○優秀な若手研究者に対する主体的な研究機会の提供

- ◆特別研究員事業 16,082百万円(16,319百万円)
- イノベーションの担い手となる多様な人材の育成・確保
- ◆プログラム・マネージャー(PM)の育成・活躍推進プログラム 140百万円(140百万円)
- ◆次世代アントレプレナー育成プログラム(EDGE-NEXT)(※) 330百万円(新規)

EDGEプログラムの成果や知見を活用しつつ、起業活動率の向上、アントレプレナーシップの醸成を目指し、我が国のベンチャー創出力を強化。

※「第4次産業革命に向けた人材育成総合イニシアチブ」  
(平成28年4月19日産業競争力会議 文部科学大臣発表)の推進関連

大学

## ■次代の科学技術イノベーションを担う人材の育成

- ◆スーパーサイエンスハイスクール(SSH)支援事業 2,219百万円(2,155百万円)  
先進的な理数系教育を実施する高等学校等をSSHに指定し、支援。
- ◆グローバルサイエンスキャンパス事業 644百万円(625百万円)
- ◆Jr.ドクター育成塾 100百万円(新規)  
理数・情報分野で特に意欲や突出した能力を有する全国の小中学生を対象に、大学等が特別な教育プログラムを提供。

高校

中学校

小学校

研究者

ポスドク

大学院

### ◆各学校段階における力試し・切磋琢磨の場

切磋琢磨の場  
学生による自主研究の発表  
サイエンスイカレ

科学技術、理科・数学へのさらなる関心向上、優れた素質を持つ生徒の発掘・才能の伸長を図る。



科学の甲子園ジュニア



## ■女性研究者の活躍促進

### ◆ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ

1,088百万円(1,088百万円)  
研究と出産・育児・介護等との両立、女性研究者の研究力向上を通じたリーダー育成など、大学等における研究環境のダイバーシティ実現を支援。

### ◆特別研究員(RPD)事業

930百万円(869百万円)  
※再掲

### ◆女子中高生の理系進路選択支援プログラム

45百万円(30百万円)  
女子中高生の理系分野への興味・関心を高め、適切な理系進路の選択を可能にするため、地域や企業等と連携した取組などを実施する大学等を支援。

# 卓越研究員事業

平成29年度予算額(案) : 1,510百万円  
 (平成28年度予算額 : 1,000百万円)

## 趣旨

- ▶ **優秀な研究者の新たなキャリアパスを提示することにより、不安定な雇用によって、新たな研究領域に挑戦し、独創的な成果を出すような若手研究者の減少を防ぎ、若手を研究職に惹きつける。**
- ▶ **産学官の様々な研究機関における研究者の活躍を促進することにより、分野、組織、セクター等の壁を越えた人材の流動性を高め、急速な産業構造の変化への対応を図る。**
- ▶ 「第4次産業革命に向けた人材育成総合イニシアチブ」を受け、AI、IoT、ビッグデータ等の分野における若手研究者の活躍を促進する。
- ▶ 国立大学については、「国立大学経営力戦略」等に基づく自己改革を基盤として、若手研究者が活躍できる環境を整備する。

○第5期科学技術基本計画(抄)(平成28年1月22日閣議決定)

優れた若手研究者に対しては、安定したポストに就きながら独立した自由な研究環境の下で活躍できるようにするための制度を創設し、若手支援の強化を図る。

○日本再興戦略2016(～第4次産業革命に向けて～)(抄)(平成28年6月2日閣議決定)

優れた若手研究者が安定したポストと自由な研究環境で活躍できることを可能にする卓越研究員制度については、(中略)制度を着実に推進する。

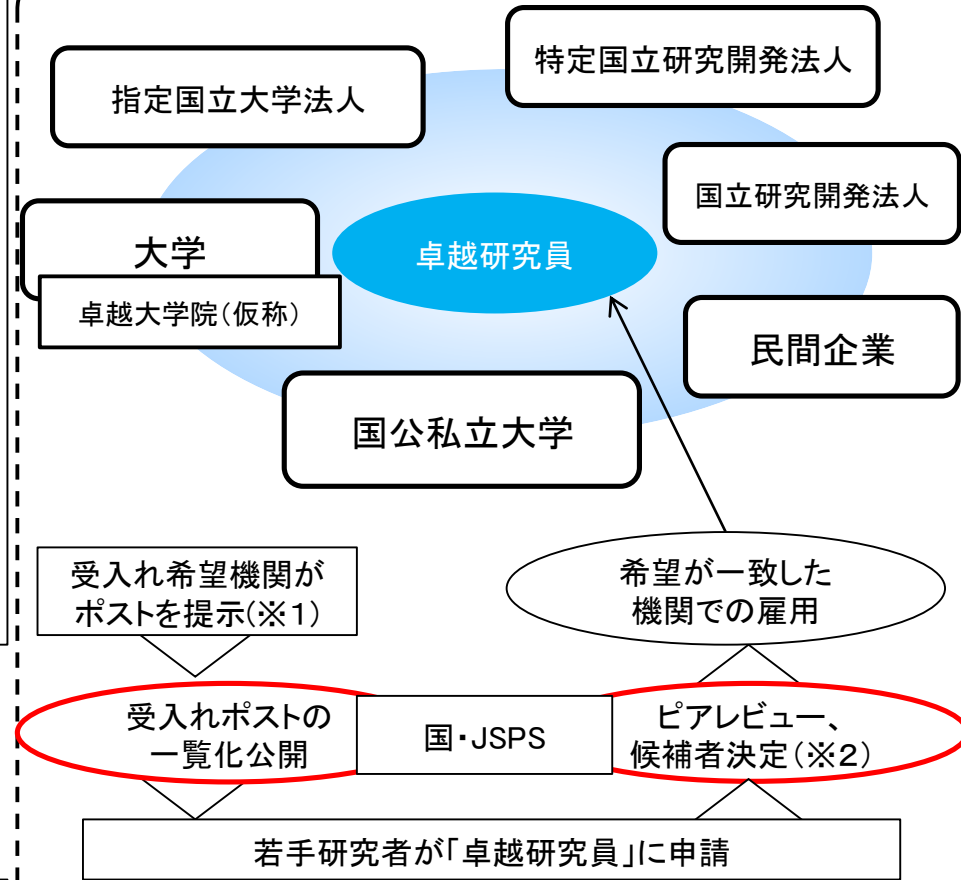
## 《卓越研究員》

- ・ 新たな研究領域に挑戦するような若手研究者が、安定かつ自立して研究を推進できる環境を実現
- ・ 全国の産学官の研究機関をフィールドとして活躍し得る若手研究者の新たなキャリアパスを開拓

## 概要

- 研究領域 : 自然科学、人文・社会科学の全分野
- 人数 : 100名程度(平成29年度新規分)
- 受入機関 : 国公立大学、国立研究開発法人、民間企業等
- 支援内容 : 1人当たり研究費:年間6百万円程度(2年間)  
 研究環境整備費:年間2～3百万円程度(5年間)  
 ※人文・社会科学系は、それぞれ3分の2程度の額を支援予定  
 ※その他、審査等経費を計上。

## 制度概要



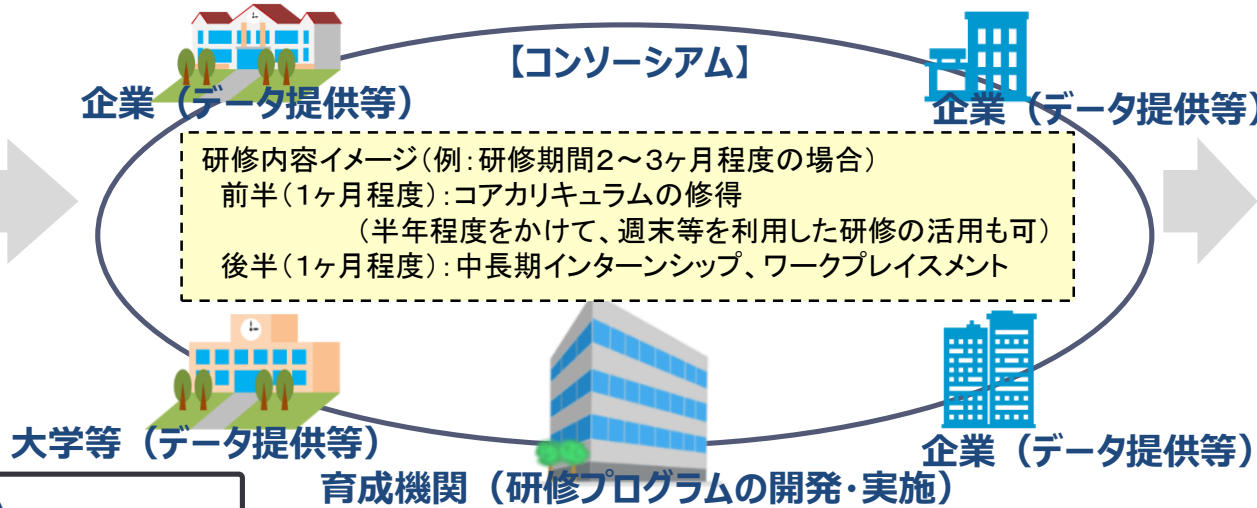
※1. 受入れポストの主な要件

- ・学長等のリーダーシップに基づき、受入れ希望機関の将来構想に基づくポストであって、若手研究者の自立的な研究環境が用意されていること
- ・年俸制(無期)、又は当初の雇用期間が5年程度(民間においては3年程度)かつ当該期間後のテニユア化等の条件を明示していること 等

※2. 産学官の研究機関で活躍し得る意欲や柔軟性を有し、新たな研究領域の開拓等を実現できるような者を選定。

- 我が国が第4次産業革命を勝ち抜き、未来社会を創造するためには、**AI、IoT、ビッグデータ、セキュリティ等を扱うデータ関連人材の育成・確保が喫緊の課題。**
- 博士課程学生・博士号取得者等**の高度人材に対して、データサイエンス等のスキルを習得させる研修プログラムを実施することにより、我が国社会で求められる**データ関連人材を育成し**、社会の多様な場での活躍を促進。
- 研修プログラムの開発・実施を行う育成機関が、データ関連人材の雇用を希望する企業、大学等とコンソーシアムを形成し**、博士課程学生・博士号取得者等に対して、**インターンシップ・PBL※等による研修プログラムを開発・実施**することで、各々の専門性を有しながら、**データサイエンス等のスキルを習得させる**とともに、**キャリア開発の支援を実施**。 ※(Project-Based Learning : 課題解決型学習)

博士課程学生・  
博士号取得者等



＜多様なキャリア＞

コンソーシアムに参加する企業等における雇用を通じて、博士課程学生・博士号取得者等のデータ関連人材としての多様なキャリアを実現

- ・ **育成機関が、データ関連人材の雇用を希望する複数の企業、大学等の他機関とコンソーシアムを形成**
- ・ **育成機関が博士課程学生・博士号取得者等を募集・選定し**、コンソーシアム参加機関からデータの提供等を受けながら、データサイエンス等のスキルを習得させるための**研修プログラムを開発・実施**
- ・ 研修プログラム修了者のコンソーシアム参加機関を含む**社会の多様な場での活躍を促進**
- ・ 研修プログラムの開発に当たっては、**AIPプロジェクト(※)による成果も活用**

※AIPプロジェクト(人工知能/ビッグデータ/IoT/サイバーセキュリティ統合プロジェクト、平成28年度開始事業)  
・人工知能の革新的な基盤技術の研究開発等を一体的に実施

《支援対象経費》  
研修プログラムの開発・実施経費  
(補助率1/2、補助金上限額70百万円)

《事業期間》  
8年間(補助対象期間は5年間)  
※3年目に中間評価を実施

《支援拠点数》  
3拠点(コンソーシアム)程度

《研修対象人数》  
70人程度/年・拠点

# 科学技術イノベーションを担う女性の活躍促進

平成29年度予算額(案) : 2,062百万円  
 (平成28年度予算額) : 1,987百万円  
 ※運営費交付金中の推計額を含む

## 現状認識

- 我が国の女性研究者の割合は増加傾向にあるが、主要国と比較すると、いまだ低い水準。研究者が研究活動を継続する上で、研究等とライフイベント(出産・育児・介護等)との両立が困難な状況にあり、その影響もあり、上位職に占める女性の割合も低い状況。
- 次代を担う自然科学系の大学学部・大学院における女子学生の割合も低い状況。

## 事業概要

### ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ

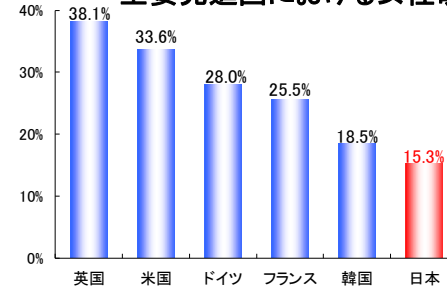
1,088百万円(1,088百万円)

研究と出産・育児・介護等との両立や女性研究者の研究力向上を通じたリーダー育成を一体的に推進するなど、女性研究者の活躍促進を通じた研究環境のダイバーシティ実現に関する目標・計画を掲げ、優れた取組を実施する大学等を選定し、重点支援。

### 支援対象等

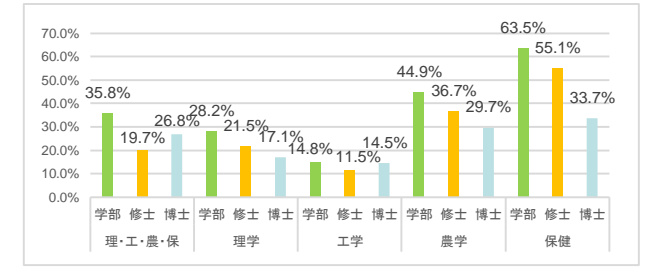
- 対象機関: 大学、国立研究開発法人等
- 支援取組: 単一の機関内での部局横断的な取組(特色型)や、複数の機関が連携し、地域や分野における女性研究者の活躍促進を牽引する取組(牽引型)
- 補助金額: 2千万円程度/年(特色型)、5千万円程度/年(牽引型) <平成29年度新規分>
- 事業期間: 6年間(うち補助期間3年間)

## 主要先進国における女性研究者の割合



〈出典〉  
 総務省「平成28年科学技術研究調査報告」、OECD「Main Science and Technology Indicators」、NSF「Science and Engineering Indicators 2014」を基に文部科学省作成

## 大学入学者に占める女性割合



平成27年度学校基本調査より文部科学省作成

## 特別研究員(RPD)



930百万円(869百万円)

優れた研究者が、出産・育児による研究中断後に、円滑に研究現場に復帰できるよう、研究奨励金を支給し、支援。

(RPD: Restart Postdoctoral Fellowship)

### 支援対象等

- 対象: 研究中断から復帰する博士課程修了者等
- 支援人数: 200人⇒214人(新規64人)
- 月額: 36.7万円(研究奨励金)
- 採用期間: 3年間

## 女子中高生の理系進路選択支援プログラム



45百万円(30百万円)

女子中高生の理系分野への興味・関心を高め、適切な理系進路の選択を可能にするため、シンポジウムや実験教室等の取組に加え、地域や企業等と連携した取組などを実施する大学等を支援する。

### 支援対象等

- 対象機関: 大学・研究機関・民間企業・教育委員会等による構成組織の代表機関
- 支援取組: 適切な理系進路選択について女子中高生に効果的にアプローチするために、学校・家庭・地域が連携した地域ぐるみの取組を支援
- 支援金額: 300万円/年・件(新規5件程度)
- 実施期間: 2年間

## 期待される効果

- 様々な視点を持った多様な研究者等が共に研究活動を行う環境が構築され、イノベーションが生み出されることを期待
- 女性が理工系への進路を選択し、その能力を活かし、社会の様々な場において活躍することを期待

# ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ

平成29年度予算額(案) : 1,088百万円  
 (平成28年度予算額) : 1,088百万円

## 現状認識

- 我が国の女性研究者数は増加傾向にあるが、その割合は、主要国と比較して、なお低い水準。
- 研究者が研究活動を継続する上で、出産・育児・介護等との両立が困難。
- 研究者の業績評価に当たって、育児・介護に対する配慮が不足しているとの指摘。
- 結果として、女性研究者の上位職への登用が進んでいない。

## ●科学技術イノベーション総合戦略2016

(平成28年5月閣議決定)

### 第3章 科学技術イノベーションの基盤的な力の強化

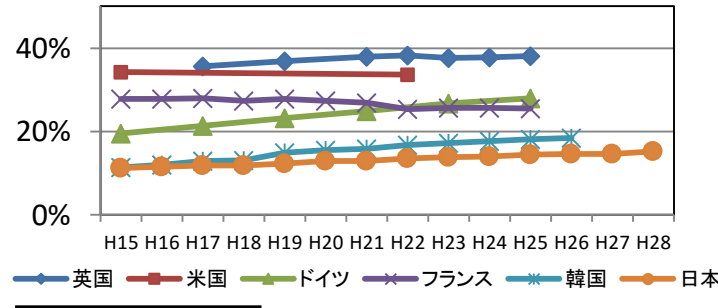
#### (1)人材力の強化【重きを置くべき取組】

##### Ⅱ人材の多様性確保と流動化の促進

##### ○女性の活躍促進

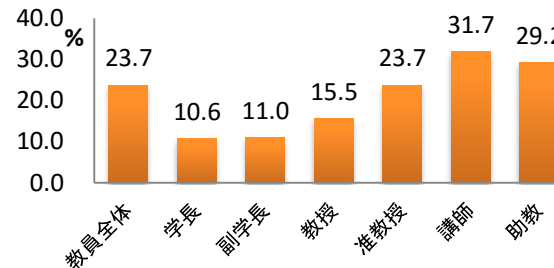
- ・科学技術イノベーションへの参入を目指す女性のロールモデルとなるような**女性リーダーの登用を促進**するとともに、**ワークライフバランスの実現のための支援及び環境整備**を行い、女性が継続的に知的プロフェッショナルとして活躍できる環境整備に取り組む。

## ●主要国における女性研究者割合の推移



(出典) 総務省「科学技術研究調査報告」、OECD「Main Science and Technology Indicators」、NSF「Science and Engineering Indicators 2014」をもとに文部科学省作成

## ●大学における職位別の女性教員割合



(出典) 平成28年度学校基本調査(速報値)を基に文部科学省作成

## 事業概要

研究と出産・育児・介護等との両立や女性研究者の研究力向上を通じたリーダー育成を一体的に推進するなど、研究環境のダイバーシティ実現に関する目標・計画を掲げ、優れた取組を実施する大学等を選定し、重点支援。

### 支援対象等

- 対象機関：大学、国立研究開発法人等
- 支援取組：単一の機関内での部局横断的な取組(特色型)や複数の機関が連携し、地域や分野における女性研究者の活躍を牽引する取組(牽引型)を支援
- 補助金額：2千万円程度/年(特色型)、5千万円程度/年(牽引型)  
<平成29年度新規分>
- 事業期間：6年間(うち補助期間3年間)

## 大学や研究機関等における体系的・組織的な取組

### 【目標・計画の設定】

- ・研究環境のダイバーシティ実現のための目標(数値目標)、計画等の設定
- ・指導的立場における女性割合の数値目標の設定

### 【研究の継続・復帰】

- ・ライフイベント中の研究補助者やメンターの配置
- ・ライフイベント等により研究継続を断念した者等の研究活動の再開支援
- ・研究リーダーにふさわしい研究能力やマネジメント能力等の育成
- ・夜間保育、休日保育、病児・病後児保育等の利用に対する支援 等

### 【補助期間終了後の継続性】

- ・マッチングファンド方式等により、補助期間終了後の自主的な継続を担保

## 期待される効果

- 女性研究者が途切れることなくキャリアアップを図ることができる環境の整備。女性リーダーの活躍促進。
- 様々な視点を持った研究者が共に研究活動を行う環境が構築され、新たな研究開発成果が生まれることが期待

# 女子中高生の理系進路選択支援プログラム

(大学等と連携した科学技術人材育成活動の実践・環境整備支援の内数)

平成29年度予算額(案) : 45百万円  
 平成28年度予算額 : 30百万円  
 ※運営費交付金中の推計額

## 現状認識

- 女性が科学技術分野に進む上で将来像が描きにくい。
- 自然科学系の学部・大学院に占める女性の割合は、人文・社会科学に比べて低い。
- 多用な視点や優れた発想を取り入れ科学技術イノベーションを活性化させるためには、女性の活躍が不可欠。

⇒ 女子中高生の理系分野への興味・関心を高め、適切に理系進路を選択することが可能となるよう、地域で継続的に行われる取組を推進。

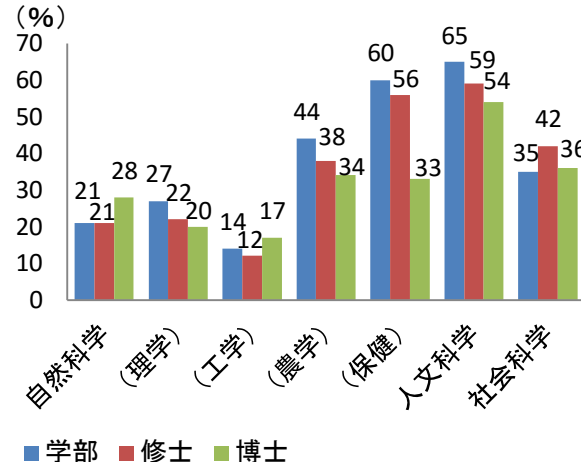
### 「第5期科学技術基本計画」(抄)(平成28年1月22日 閣議決定)

・国は、次代を担う女性が科学技術イノベーションに関連して将来活躍できるよう、女子中高生やその保護者への科学技術系の進路に対する興味関心の理解を深める取組を推進するとともに、関係府省や産業界、学界、民間団体など産学官の連携を強化し、理工系分野での女性の活躍に関する社会一般からの理解の獲得を促進する。

### 「第4次男女共同参画基本計画」(抄)(平成27年12月27日 閣議決定)

・大学、研究機関、学術団体、企業等の協力の下、女子児童・生徒、保護者及び教員に対し、理工系選択のメリットに関する意識啓発、理工系分野の仕事内容、働き方及び理工系出身者のキャリアに関する理解を促す。

(参考) 学部学生・院生に占める女性の割合



平成28年度学校基本調査より作成

## <事業概要>

- ・支援先: 大学・高専等を含めた連携機関等 (300万円×15件)  
**H29 新規採択数: 5件程度**
- ・支援期間: 2年間
- ・内容: シンポジウム開催、実験、出前講座、理系キャリア相談会等
- ・対象: 女子中高生、保護者、教員 (小学校5年生以上の児童も可)

### プログラム実施例のイメージ図



## <取組内容の特徴>

### 1. 事業運営の基盤を構築

産学官連携により、**女性の活躍に関する社会全体の理解を促進、多様なロールモデルを提示。**

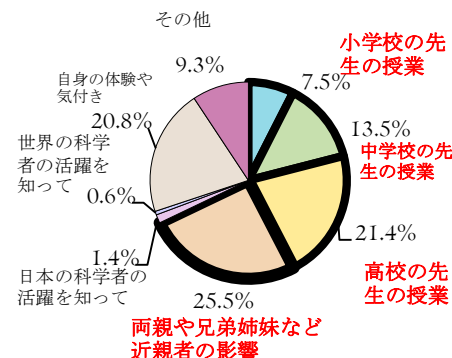
### 2. 文理選択に迷う生徒の興味を喚起

シンポジウム・実験等に加え、**積極的な学校訪問**によるワークショップ等を実施。理系の進路選択に関心が薄い層や文理選択に迷う層に対する、興味関心の喚起。**幅広い視点からの進路選択**に寄与。

### 3. 保護者・教員等へのアプローチ

**進路選択に大きな影響を与える保護者や教員向け**の取組を積極的に実施。また、小学校高学年の児童の参加も可とすることにより、**興味関心の早期定着**を図る。

(参考) 女子学生が理系の進路を選択した理由



出典: 日本ロレアルによる「理系女子学生の満足度に関する意識調査」(平成23年6月)

## <目指す姿>

- ・**女子中高生の適切な進路選択を通じた、女性の多様な分野での活躍。**
- ・**科学技術分野での女性の活躍により、我が国の科学技術イノベーションを推進。**

# 次世代人材育成事業

平成29年度予算額(案) : 4,003百万円  
(平成28年度予算額 : 3,947百万円)  
※運営費交付金中の推計額

概要

将来にわたり、日本が科学技術で世界をリードしていくためには、次代を担う才能豊かな子ども達を継続的、体系的に育成していくことが必要。そのため、初等中等教育段階から優れた素質を持つ児童生徒を発掘し、その才能を伸ばすための一貫した取組を推進する。

## 「第5期科学技術基本計画」(抄)(平成28年1月22日閣議決定)

我が国が科学技術イノベーション力を持続的に向上していくためには、初等中等教育及び大学教育を通じて、次代の科学技術イノベーションを担う人材の育成を図り、その能力・才能の伸長を促すとともに、理数好きの児童生徒の拡大を図ることが重要である。このため、創造性を育む教育や理数学習の機会の提供等を通じて、優れた素質を持つ児童生徒及び学生の才能を伸ばす取組を推進する。

小学校

中学校

高等学校

大学

社会

トップ人材育成

(将来のグローバルリーダー育成)

裾野の拡大

(興味関心の喚起)

### ■ 科学技術コンテストの推進

理数系の意欲・能力が高い中高生が科学技術に係る能力を競い、相互に研鑽する場を構築・支援(各種科学オリンピックへの支援、科学の甲子園、科学の甲子園ジュニアの開催)

### ■ Jr.ドクター育成塾

理数・情報分野で特に意欲や突出した能力を有する全国の小中学生を対象に、特別な教育プログラムを実施する大学等を支援

### ■ グローバルサイエンスキャンパス(GSC)

卓越した意欲・能力のある生徒を対象とした、大学等が実施する次世代の傑出した国際的科学技術人材の育成プログラムの開発・実施

### ■ スーパーサイエンスハイスクール(SSH)

生徒の科学的能力や科学的思考力等を培い、将来社会を牽引する科学技術人材を育成するために、先進的な理数系教育を実施する高等学校等を「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」として指定し支援

### ■ 中高生の科学研究実践活動推進プログラム

大学と教育委員会が連携した学習活動の推進、学習活動を指導できる教員の育成

- ① 中高生を対象とした科学部活動等支援  
生徒が自主的に研究課題を設定し、科学的手法に基づいて行う研究活動の実践を推進
- ② 教員の研究指導力の向上に係る取組の推進  
上述の研究活動を指導できる教員を育成するための取組を推進

### ■ 女子中高生の理系進路選択支援プログラム

大学や関係機関におけるシンポジウム等において、科学技術分野で活躍する女性研究者等のロールモデルの提示等により、女子中高生の理系進路選択を推進

科学技術人材の戦略的・体系的な育成・確保

次世代の多様な科学技術イノベーション人材の創出

※ 上記の取組に加えて下記の取組を推進



# Jr.ドクター育成塾

(大学等と連携した科学技術人材育成活動の実践・環境整備支援の内数)

平成29年度予算額(案) : 100百万円(新規)  
※運営費交付金中の推計額

## 現状認識

- 第4次産業革命を見据えた、未来を創造する人材の早期育成が重要
- 理数・情報系分野に関して突出した意欲や能力のある小中学生に対する取組が希薄

採択先：大学・高専・民間団体等  
採択期間：5年間  
実施規模：10機関  
10百万円/機関

## 概要

理数・情報分野で特に意欲や突出した能力を有する全国の小中学生を対象に、大学等が特別な教育プログラムを提供し、その能力等の更なる伸長を図る。

### 「全ての子どもたちの能力を伸ばし可能性を開花させる教育へ(第9次提言)」(抄) (平成28年5月20日 教育再生実行会議決定)

国は、理数分野等で突出した意欲や能力のある小中学生を対象に、大学・民間団体等が体系的な教育プログラムにより指導を行い、その能力を大きく伸ばすための新たな取組を全国各地で実施する。

### 「日本再興戦略2016」(抄) (平成28年6月2日 閣議決定)

新たな時代を牽引する突出した人材の育成に向けて、既存の取組を見直しつつ、理数・情報分野で特に意欲や突出した能力を有する全国の小中学生を対象とした特別な教育の機会を設けることにより、その能力を大きく伸ばすための取組を検討・推進する。

## ※ イメージ図

レポート・発言・面接・出席率・試験等を参考に、興味・進捗に応じて、特に意欲・能力の高い小中学生に、一層創造性、専門性を向上

・配属する研究室とのマッチング、研究・論文作成における教員等の個別指導、各種機会での発表等により、**創造性・課題設定能力・専門分野の能力を伸長**

特に意欲・能力の高い小中学生

・各種講義、講演、少人数での実験、最先端施設の見学、倫理・社会における科学の役割等、科学の基礎を徹底的に学習。**科学技術人材としての基盤を構築。**  
・多様な分野の受講を経た後、**特に興味を持てる分野を発見**していく。

各地域における意欲のある小中学生

応募

教員や大学院生等による、きめ細やかな支援  
※3対1～マンツーマン

全国規模のイベント  
対象：卓越した小中学生

・各地域の卓越した子供による合同合宿・研究発表会を数日間実施。  
・地域や専門分野を超えて、小中学生が集い切磋琢磨する機会の提供。

例：ノーベル賞受賞者等による講義・実験、各々が実施してきた研究の発表会、未知の分野の研究、国内トップ層の大学生・高校生・留学生との交流 等



少人数での講義や研究活動

自己推薦  
(保護者推薦)

教育委員会・  
学校推薦

各種オリンピック・  
科学の甲子園Jr出場者

科学館・博物館等の  
取組を通じた推薦

その他  
(機関独自の手法による募集)

未来を創造する哲学  
と指針を与える講演

ノーベル賞受賞者との  
実験

# スーパーサイエンスハイスクール（SSH）支援事業

平成29年度予算額（案）：2,219百万円  
（平成28年度予算額）：2,155百万円  
※運営費交付金中の推計額

将来にわたり、日本が科学技術分野で世界を牽引するためには、イノベーションの創出を担う、科学技術関係人材の育成が不可欠。本事業により、先進的な理数教育を実施している高等学校等を「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」に指定し支援。もって、先進的な科学技術、理科・数学教育を通して、生徒の科学的な能力や科学的思考力等を培い、将来の国際的な科学技術関係人材の育成を図る。

## 「第5期科学技術基本計画」（抄）（平成28年1月22日 閣議決定）

- 国は、学校における「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び（いわゆるアクティブ・ラーニング）」の視点からの学習・指導方法の改善を促進するとともに、先進的な理数教育を行う高等学校等を支援する。

## 「全ての子供たちの能力を伸ばし可能性を開花させる教育へ（第9次提言）」（抄）（平成28年5月20日 教育再生実行会議決定）

- 国、地方公共団体、大学、高等学校等は、スーパーサイエンスハイスクール・・・の取組の成果を検証しつつ、効果の上がっている取組を推進するとともに、優良事例の普及を図る。

## SSH校の主な特徴

### H29 新規指定校数：70件程度

（※指定期間：5年、支援額：年間9～16百万円、指定校数：200校（H28現在））

- 学習指導要領の枠を超え、**理数を重視した教育課程**を編成
- 主体的・協働的な学び（いわゆる**アクティブ・ラーニング**）を重視
- 研究者の講義、フィールドワーク等による**興味関心の喚起**
- 国際的な活動**（海外生徒との交流、国際学会での発表等）
- 上記取組を**高大連携**や**企業連携**により高度に実施

## <重点枠>

### H29 新規指定校数：5件程度

（※最長3年、支援額：年間5～13百万円、重点枠数：17校（H28現在））

- SSH指定校の中で、さらに、以下の取組を行う学校を重点枠に指定
  - ・理数系カリキュラムや指導法、ネットワーク等を他の学校へ普及し、**地域全体の理数系教育の向上**を目指す。
  - ・海外の先進的な理数系教育を行う学校等との定常的な連携関係を構築し、**国際性の育成**を図る。
  - ・大学等と連携したアントレプレナー教育や民間企業との共同研究の推進など、**社会課題解決への貢献を意識**した取組を実施。

## 《SSH校における先進的な取組事例》

### 高度な課題研究（平成28年度SSH生徒研究発表会表彰テーマ）

文部科学大臣表彰：福岡県立香住丘高等学校

「水平軸回転飛行物体の飛行性能の向上に関する研究-風力発電機への応用を目指して-」

国立研究開発法人科学技術振興機構賞

- ・兵庫県立加古川東高等学校「小翼を応用した新しい風車のデザイン」
- ・兵庫県立神戸高等学校「プラナリアの記憶と再生」

⇒「課題研究」（科学に関する課題を設定し、観察・実験等を通じた研究）において、大学・企業等の支援を受けながら、**主体的・協働的に学習・研究を実施**

### 海外連携



（京都府立嵯峨野高校）

- 海外連携の組織的推進
- アジアサイエンスワークショップ in シンガポール／京都
- 「サイエンス英語」における共同実験

⇒ **国際的に活躍**する意欲能力の育成

### 理数への関心の向上



（千葉県立船橋高校）

- 県内の小中高大が連携
- 全県規模の「千葉サイエンススクールフェスティバル」開催
- 高大連携セミナーの開催

⇒ 児童生徒の**理数への関心の喚起**